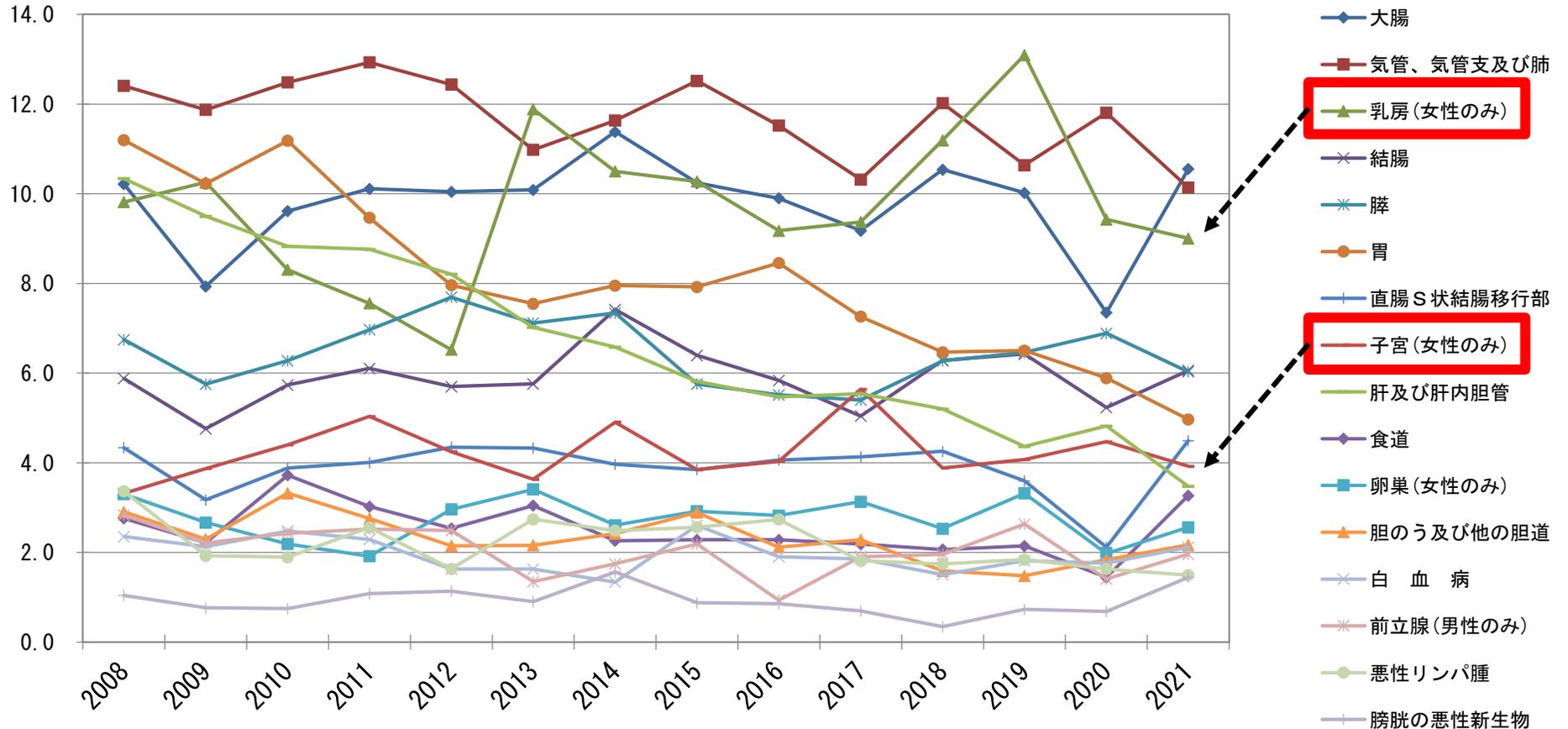


各がんの登録状況からみた 評価のまとめ

部位別 75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対)

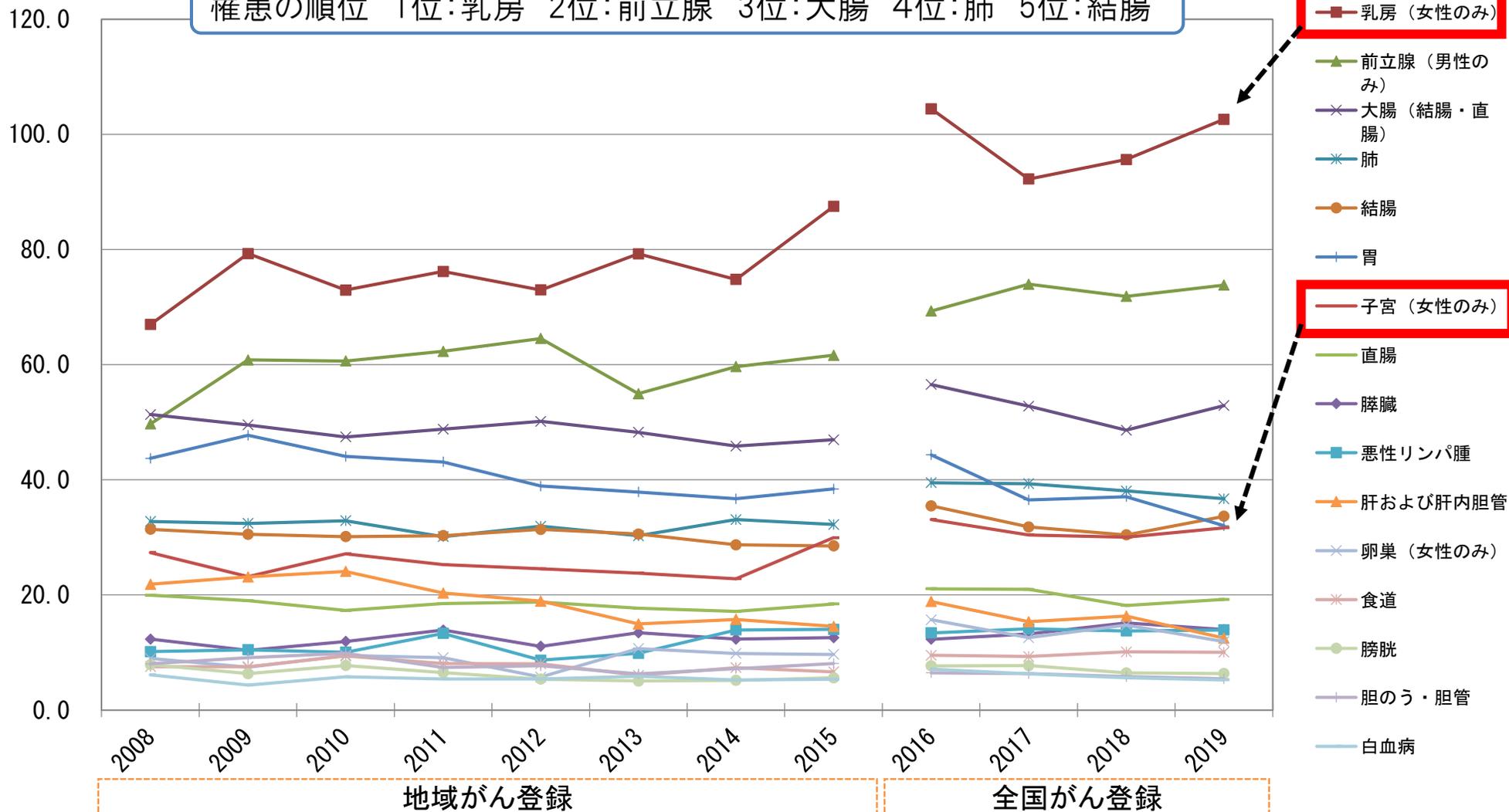


出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

乳がんは、2019年に13.1となった後、直近2年は減少しているものの、いまだ高い値で推移している。
子宮がんは、比較している部位では中間の順位にあり、長期的に横ばいで推移している。

部位別年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く)

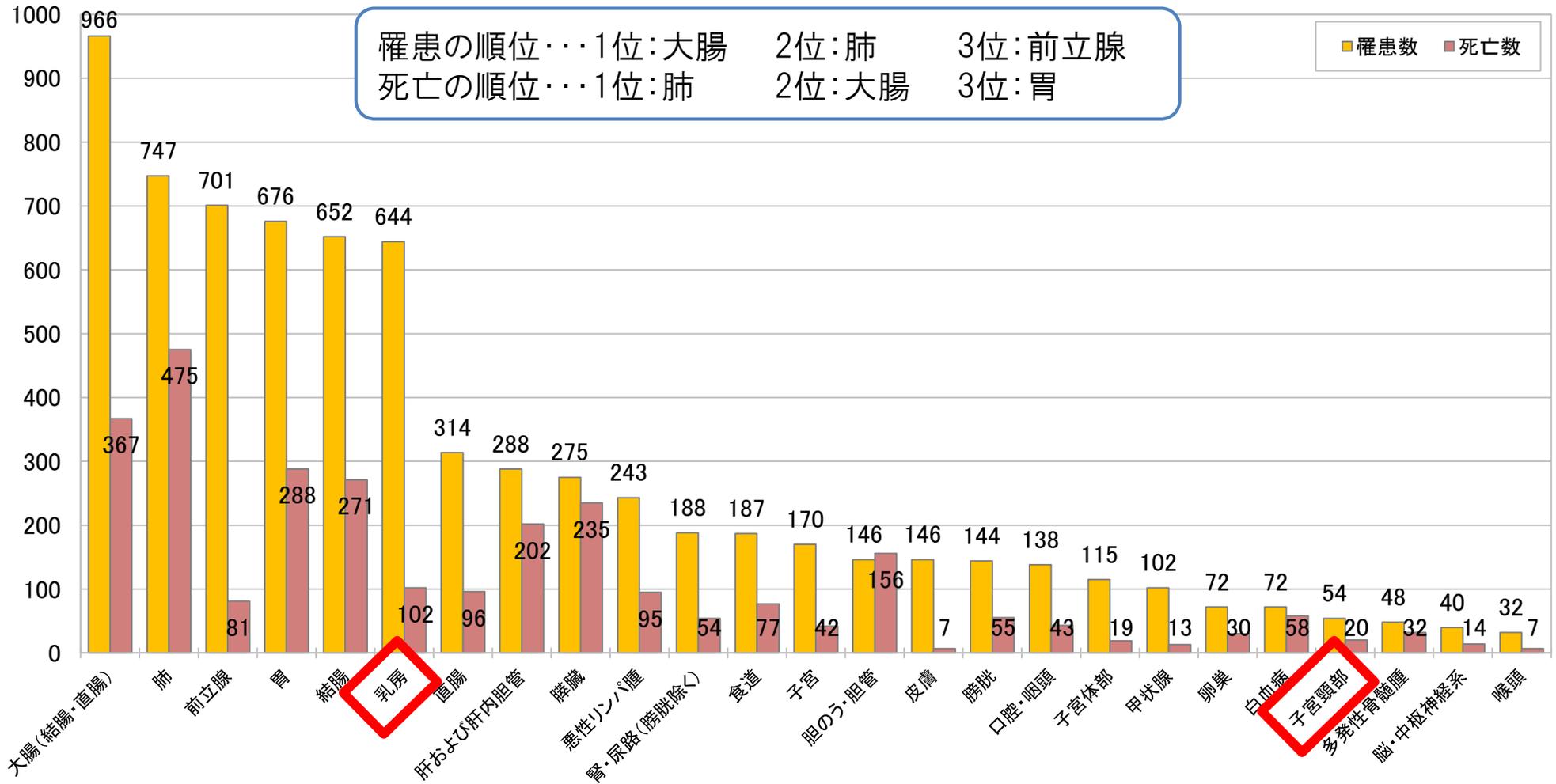
罹患の順位 1位:乳房 2位:前立腺 3位:大腸 4位:肺 5位:結腸



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))
 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

乳がんがは、比較している部位の中で最も高く、増加傾向にある。
 子宮がんは、比較している部位では中間の順位にあり、長期的に横ばいの推移である。

山梨県の罹患数と死亡数の比較(2019年)



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録) 人口動態統計

がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、前立腺がんの順である。
 がんにより亡くなった人の数(死亡数)は、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順である。
 乳がんや前立腺がんのように罹患数に比べて死亡数が少なく、死亡原因になりにくいがんがある一方で、
 肝がんや膵臓がん、胆のうがんなど、罹患数と死亡数の差が小さいがんもある。

乳がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、2019年に13.1と全国を2.5ポイント上回ったが、翌年から低下し、2021年は全国を下回っている。
2. 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
3. 発見経緯は、検診等が35.8%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も48.4%ある。
4. 発見経緯別の進行度(2016~2018)は、自覚症状等で発見されたうち限局が51.2%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。

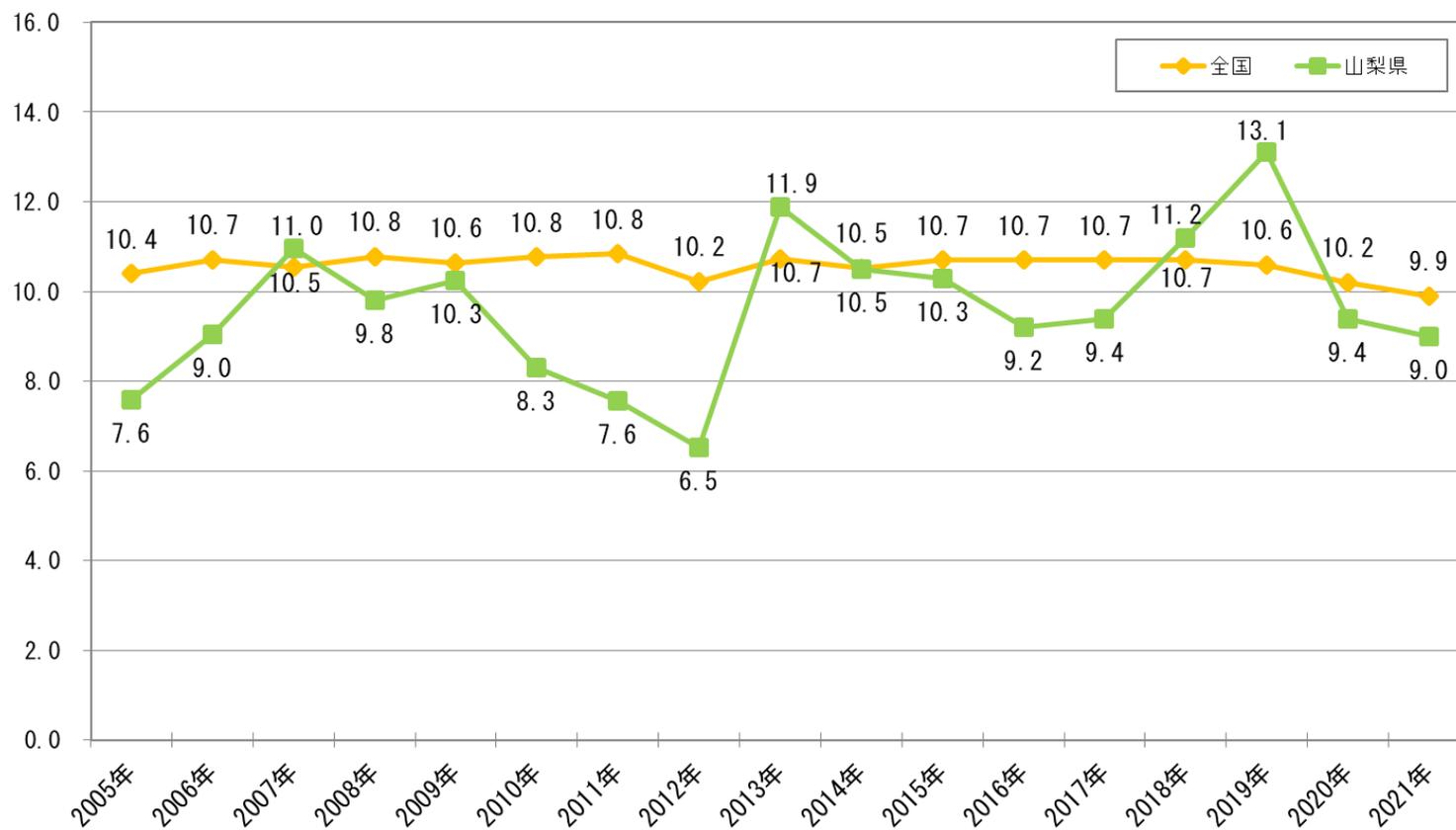
子宮頸がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的に横ばいで推移している。
2. 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨を強化する必要がある。
3. 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度(2016~2019)は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。
4. 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。

乳がん

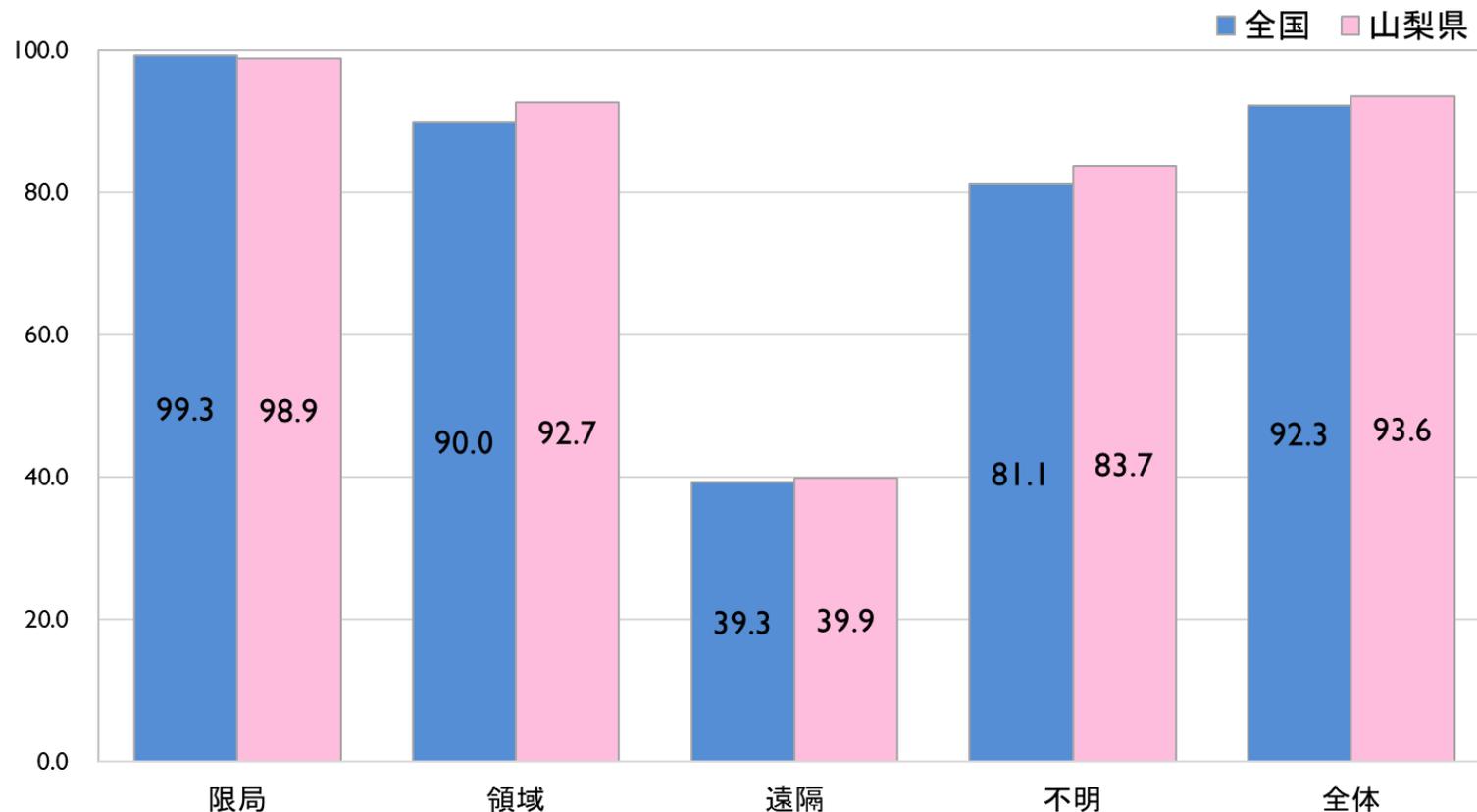
1. 75歳未満年齢調整死亡率は、2019年に13.1と全国を2.5ポイント上回ったが、2020年以降は全国を下回っている。（参考資料2スライド25）

乳がん(女性)75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)



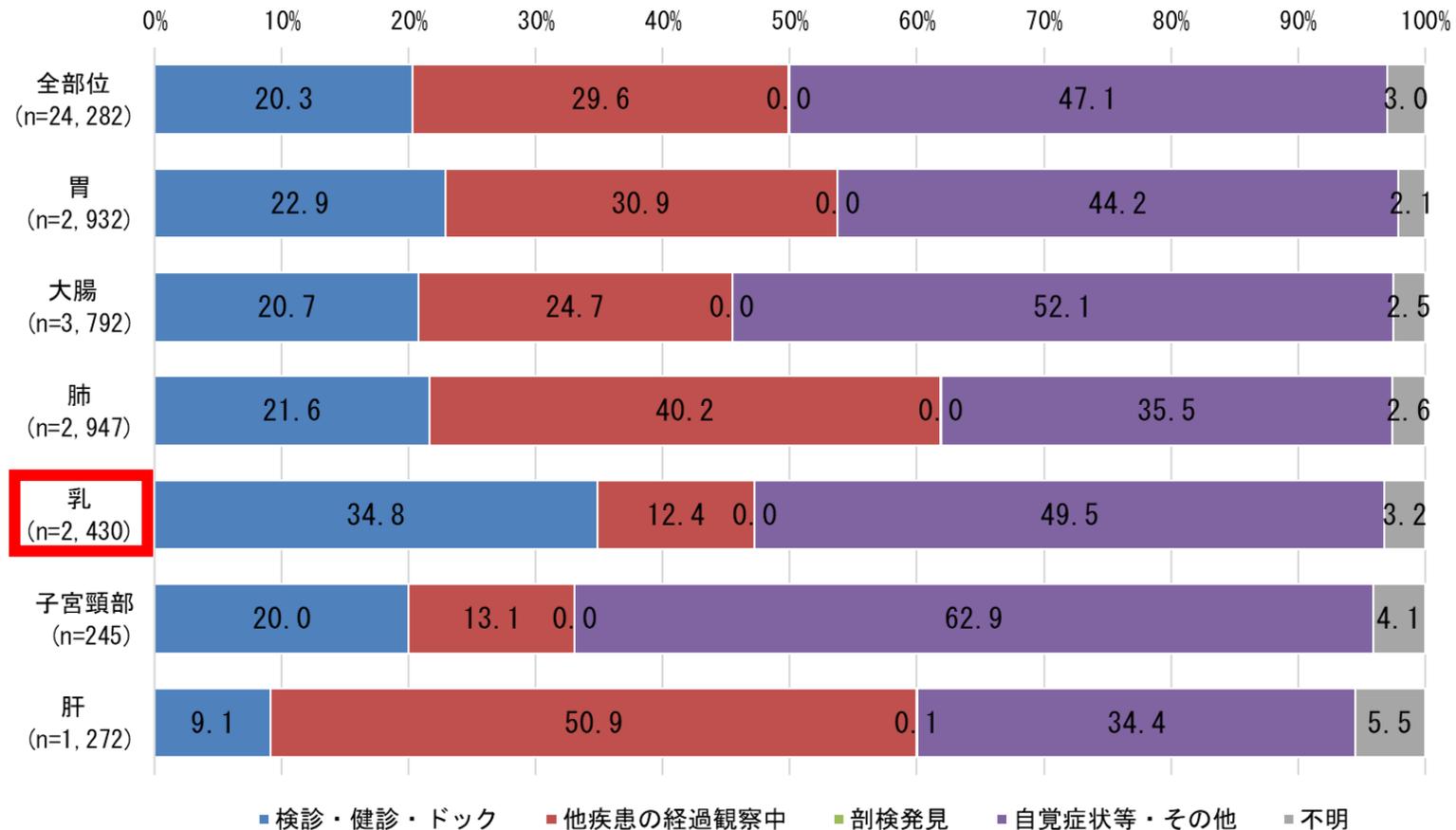
2. 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
(参考資料2スライド32)

乳がん(女性)進行度別5年相対生存率(2009~2011年)



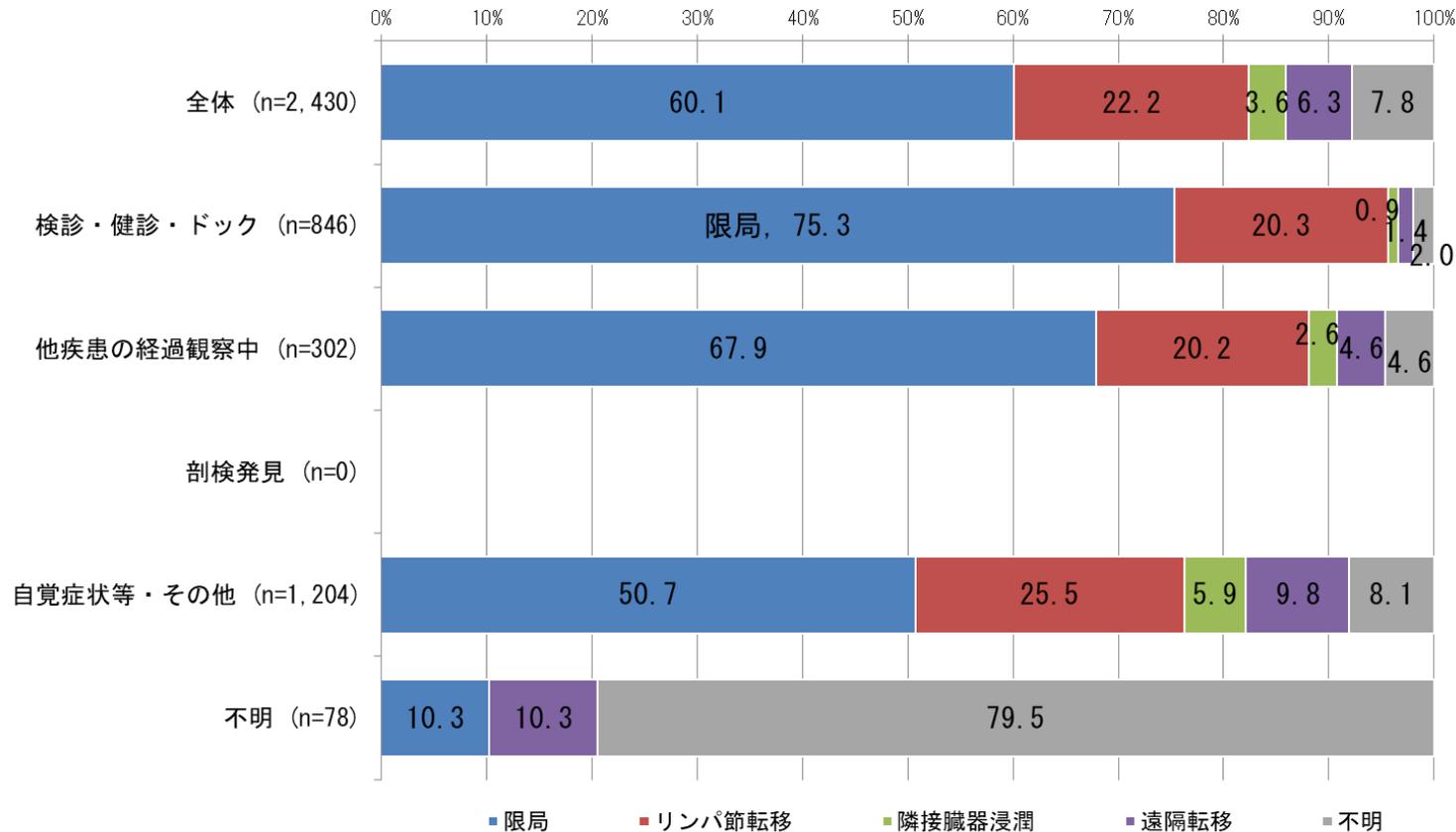
3. 発見経緯(2016~2019)は、検診等が34.8%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も49.5%ある。
(参考資料2スライド16)

部位別の発見経緯 (2016~2019年)



4. 発見経緯別の進行度(2016~2019)は、自覚症状等で発見されたうち限局が50.7%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。(参考資料2スライド31)

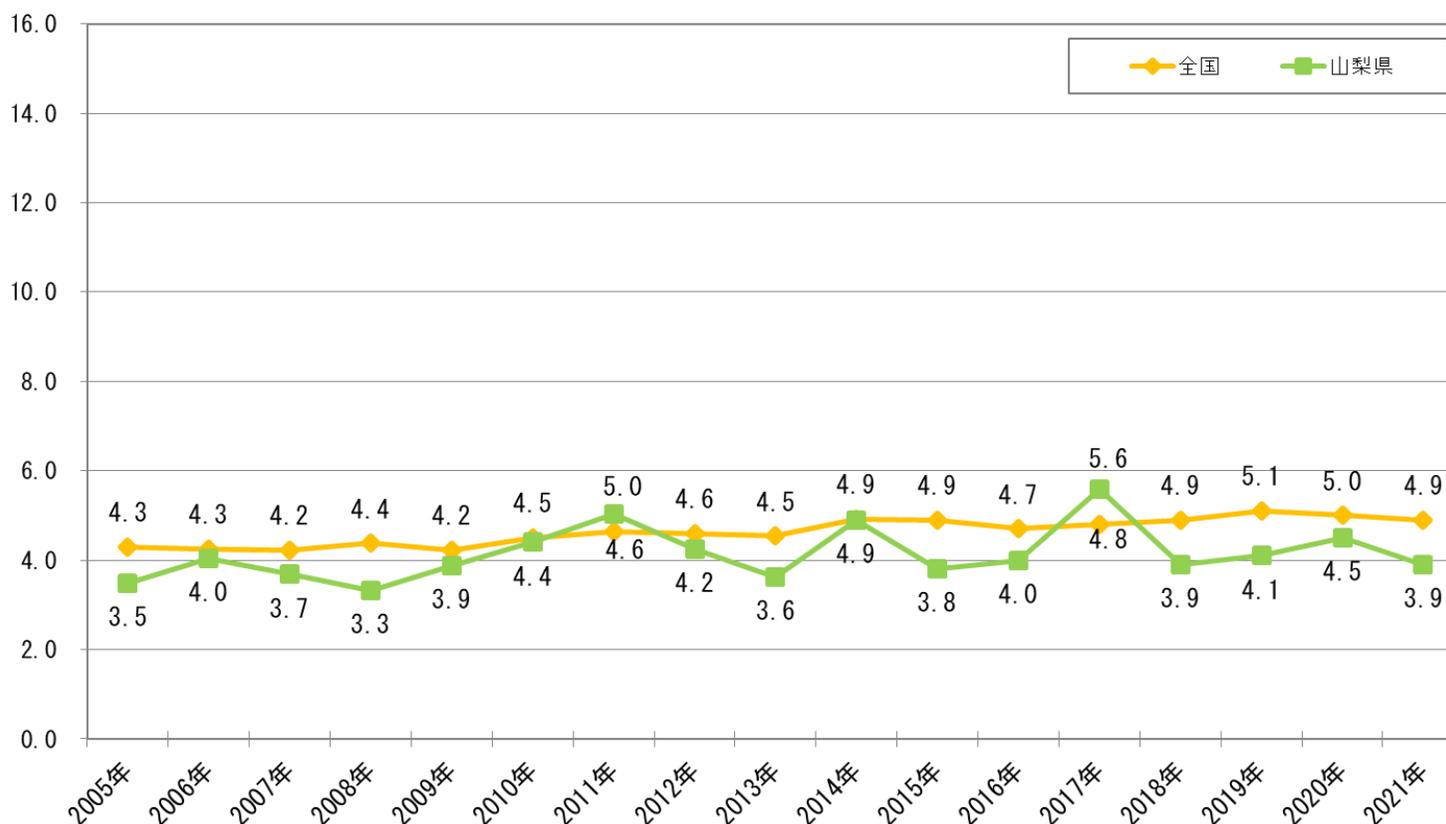
乳がん(女性)発見経緯別の進行度(2016~2019年)



子宮頸がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的に横ばいで推移している。
(参考資料2スライド34)

子宮がん75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)

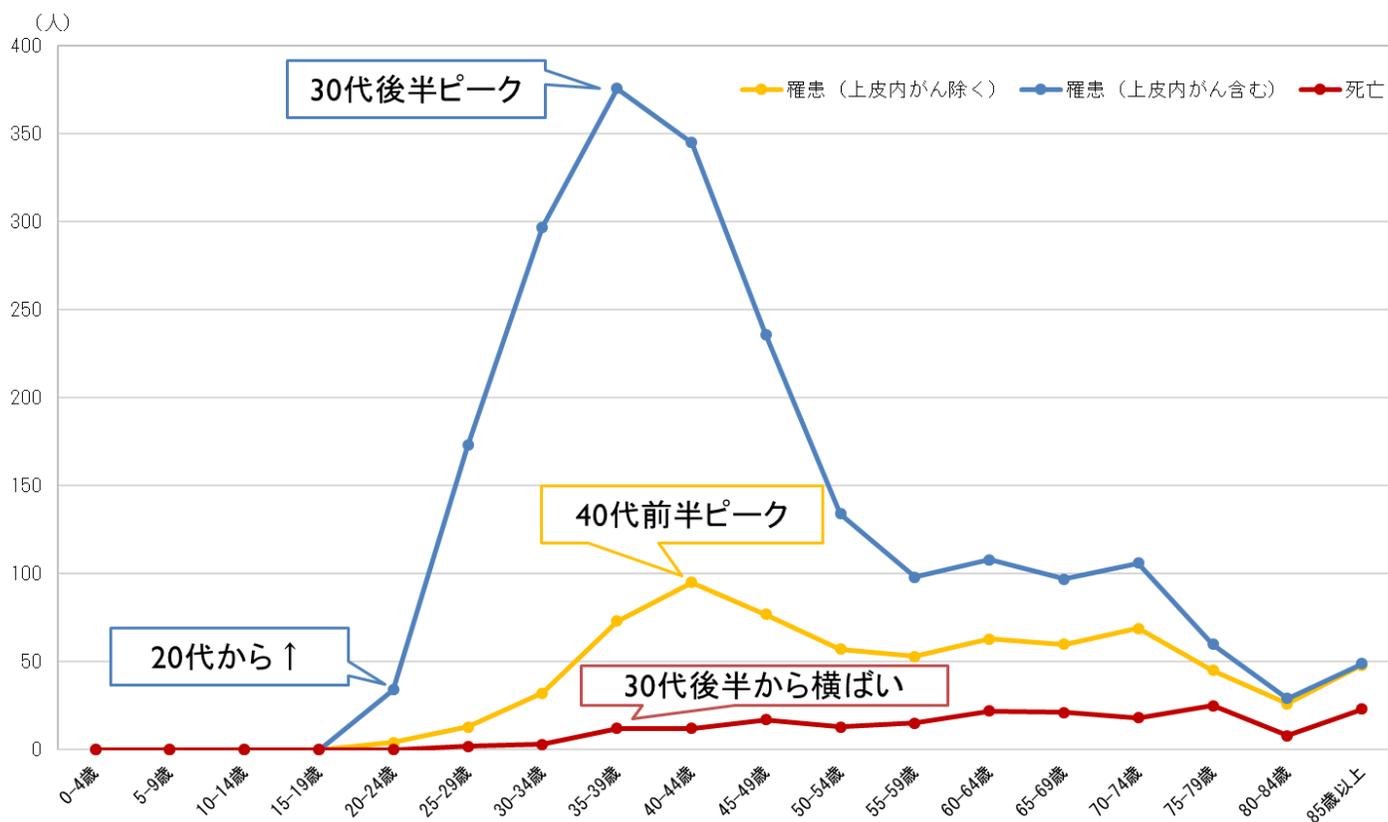


子宮頸がん

2. 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨を強化する必要がある。（参考資料2スライド37）

子宮頸がん年齢階級別罹患数と死亡数の比較

(山梨県2008－2019年の合計)

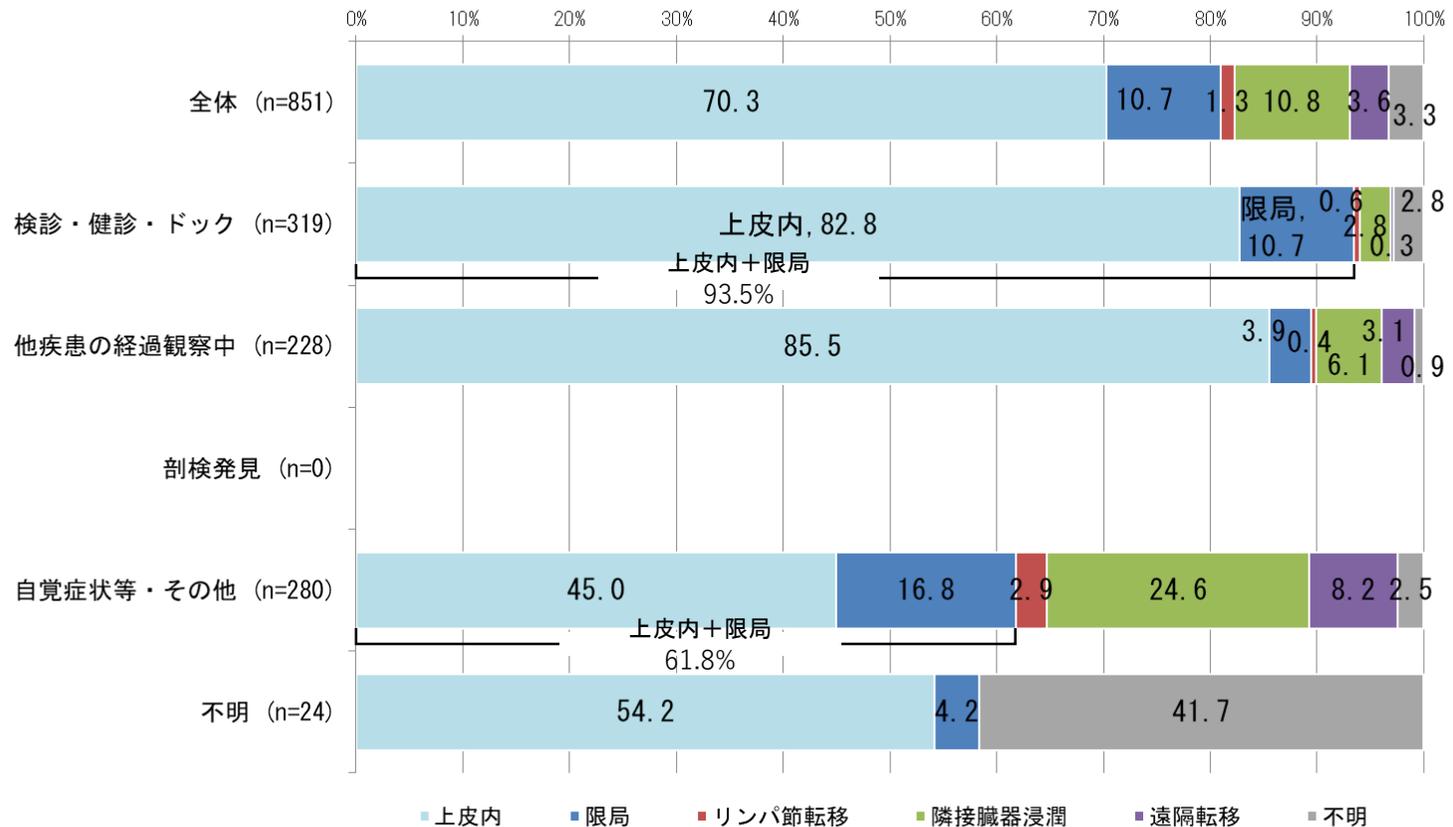


出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)
人口動態統計

子宮頸がん

3. 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度(2016~2019)は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割以上を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。(参考資料2スライド45)

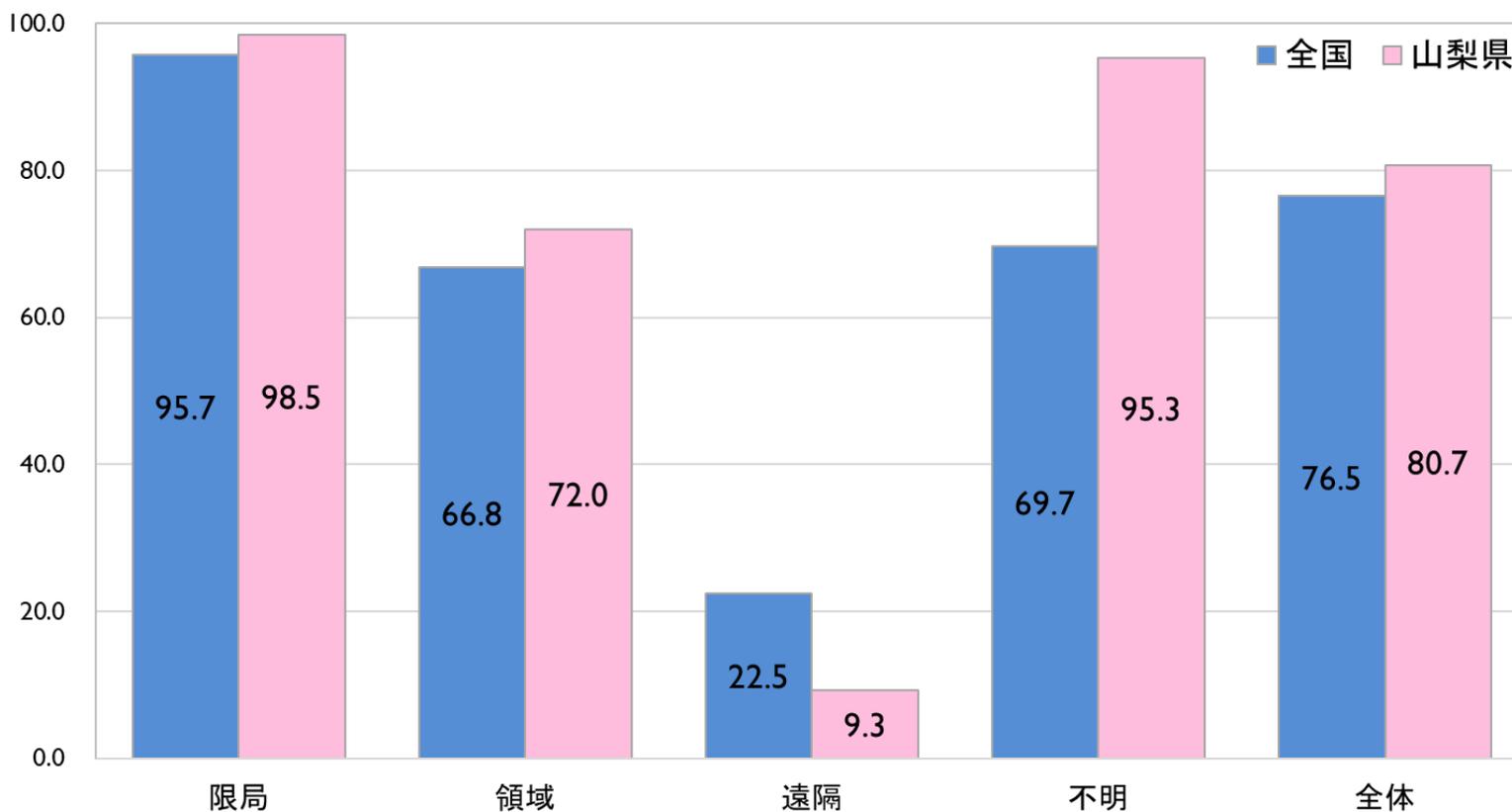
子宮頸がん(上皮内がん含む)発見経緯別の進行度(2016~2019年)



出典: 全国がん登録 山梨県研究利用目的データから抽出分析

4. 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。
(参考資料2スライド47)

子宮頸がん進行度別 5年相対生存率 (2009~2011年) (%)



領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤